

アートシステム

【禁忌・禁止】

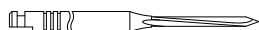
＜使用方法＞

- (1) 本品のコントラ取付けは、本品を確実に奥まで挿入し、固定されていることを確認すること。[器具の破損や脱落につながるおそれがある。]
- (2) 本品の加工・改造は行わないこと。[器具の破損や不適切な設置による術後成績不良が発生するおそれがある。]
- (3) 変形や破損した場合は使用しないこと。[器具の破損や不適切な設置による術後成績不良が発生するおそれがある。]

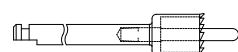
【形状・構造等】

- ①アートシステムは、次の製品より構成される。
- ②材質はステンレス鋼である。

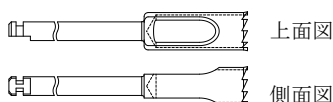
- (1) Mピーソリーマ
ガイド孔の穿孔に使用する。



- (2) サーキュラーナイフ
歯肉の切除に使用する。



- (3) トレフィン
骨の採取に使用する。



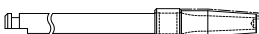
形式
4 0
5 0

形式
4 0-1 7
4 0-2 2
5 0-1 7
5 0-2 2

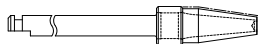
- (4) ツイストドリル 2. 8 S
植立孔を穿孔する。



- (5) AR 3 0 リーマー



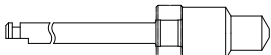
- (6) AR 4 0 リーマー



- (7) AR 5 0 リーマー



- (8) AR 6 0 リーマー



- (9) AR 6 5 リーマー



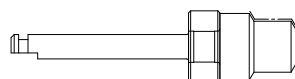
- (10) AR 6 5-S リーマー



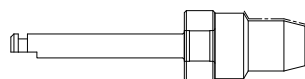
- (11) AR 4 0 N リーマー
植立孔の最終形成に使用する。



- (12) AR 6 5 N リーマー 7

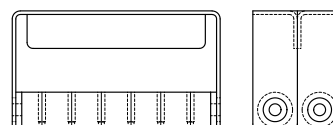


- (13) AR 6 5 N リーマー 9



※(5)～(13)いずれも植立孔の最終形成に使用する。

- (14) スタンド
アートシステムドリル用スタンド。



正面図

側面図

＜原理等＞

ハンドピースに装着し、使用の際、外部注水にて十分な生理食塩水の注水下で適正回転数にて使用する。

【使用目的又は効果】

本品は、植立孔の拡大穿孔及び拡大形成を行う際に使用する。尚、本品は再使用可能である。

【使用方法等】

- (1) Mピーソリーマ
穿孔方向を決定し、ガイド孔を穿孔する。
- (2) サーキュラーナイフ
歯肉を円形に切除する。
- (3) トレフィン
骨を採取し、植立孔を形成するために使用する。
- (4) ツイストドリル 2. 8 S
Mピーソリーマによるガイド孔に合わせて植立孔を穿孔する。
- (5) AR 3 0 リーマー
- (6) AR 4 0 リーマー
- (7) AR 5 0 リーマー
- (8) AR 6 0 リーマー
- (9) AR 6 5 リーマー
- (10) AR 6 5-S リーマー
- (11) AR 4 0 N リーマー
- (12) AR 6 5 N リーマー 7
- (13) AR 6 5 N リーマー 9
- (14) スタンド
アートシステムドリルを収納する。

植立孔の最終形成に使用する。

取扱説明書等を必ずご参照ください。

【使用上の注意】

- (1) 本品の使用に際しては、使用前にアート人工歯根療法の講習会に参加し、必要な知識と技術を確実に習得すること。また、必ずアート人工歯根療法マニュアルを参照の上で使い、注意・指示事項に従うこと。
- (2) 本品の使用に際しては、血液の飛沫などによる人体への影響を避けるため、公的機関が認可した防塵マスク、保護メガネなどを着用すること。
- (3) 本品は刃部が鋭いため、使用中に患者の術部以外の口腔内、顔面、術者の手指などを傷つけないように取扱いには充分注意すること。
- (4) 器具の形態変更、改造などをしないこと。
本品の使用には、専用エンジンを使用のこと。
- (5) 製品の仕様は改良のため、お断りなく変更することがありますのでご了承ください。
- (6) 本品は、アートシステム用マニュアルに記載の用途以外には使用しないこと。
- (7) 本品は、歯科医療有資格者以外は使用しないこと。

【使用方法に関連する使用上の注意】

- (1) 購入時は未滅菌の為、使用前に必ず洗浄・滅菌を行い、次回からの使用時にも同様に行うこと。
オートクレーブ 121℃で20分間
- (2) 本品は、使用するまで常に滅菌後の汚染に注意し、手指・未滅菌の器具などで直接触れないこと。
- (3) 本品のハンドピース又は専用器具への取付けは、脱落や器具の破損を防ぐため確実に奥まで挿入し、固定されていることを確認すること。
- (4) 本品は、使用前にハンドピースに装着し、患者の口腔外にて回転させ、注水量、芯ブレなどに支障のないことを確認すること。使用に適さない場合には、新しいものと交換すること。
- (5) 誤ったサイズでの使用は医療事故につながる危険性があるため、本品使用前には必ずドリルのサイズを確認すること。
- (6) 本品は、使用の際、発熱、外科的損傷など組織への侵襲を最小限にするため、外部注水にて十分な生理食塩水の注水下で適正回転数（リーマ類：800r.p.m.以下[外科用ハンドピース]、トレフィン（必ず外部注水を行うこと。）：25r.p.m.以下[低速用ハンドピース]）にて使用すること。
- (7) 錆や変色の恐れがあるため、長時間 生理食塩水に浸漬しないこと。
- (8) 本品を使用中に切削性が低下したり、汚染したおそれのある場合には、すぐに使用を中止し、新しいものと交換すること。（切削性の落ちたドリルは、過剰な発熱を起こしたり、ブレを起こして穿孔径が大きくなるなどの可能性があります。）

【保管方法及び有効期間等】

- (1) 本品は、汚染及び錆を防ぐため、清潔で湿度が高くならない場所にて保管・管理すること。
- (2) 錆びるおそれがあるため水分が付着したまま保管しないこと。
- (3) 本品は、歯科の従事者以外が触れないように適切に保管・管理すること。

【保守・点検に係る事項】

- (1) 本品の消毒液は、次のものを推奨します。濃度・浸漬時間・温度など使用方法は、各溶液の指示に従い正しく使用すること。
 - ・グルタラル製剤(例：ハイドリッドなど)
 - ・グルコン酸クロロヘキシジン(例：ヒビテンなど)
 - ・界面活性剤系薬液(例：塩化ベンゼトニウム液、塩化ベンザルコニウム液など)

両性界面活性剤など等を含む薬液)は使用できませんが、これらの薬剤を含んでいても、防錆効果ありと表示されているものは使用可能です。但し、一部の防錆効果のある両性界面活性剤に長時間又は高温下で浸漬した場合、変色を起こすおそれがあるので注意すること。

- (2) 次の成分を含む消毒用薬液は、使用しないこと。
 - ・塩素系薬液(例：次亜塩素酸ナトリウムなど)
 - ・過酸化水素系薬液(例：オキシドールなど)
 - ・強酸性水
- (3) 乾熱滅菌は、高温になり劣化の原因になるので使用しない

こと。

- (4) オートクレーブ滅菌の場合、機種・条件によっては滅菌バッグが湿った状態で乾燥工程が終了することがあり、その際、滅菌バッグとドリルとが直接接していると錆が発生する原因となるので、アートシステム専用のスタンドを用いてドリルと滅菌バッグとが直接接触しないようにして滅菌すること。
- (5) 錆びたドリルは、汚染を引き起こす可能性があるため、錆びていないドリルと一緒に滅菌しないこと。
- (6) 滅菌後は錆がないか点検し、錆が認められた場合には、新しいものと交換すること。
- (7) 錆発生の原因となり得るため次のことについて留意すること。
 - ・血液・骨が凝固付着したまま乾燥させないこと。
 - ・最終洗浄は精製水を使用すること。
 - ・湿度が高くて自然乾燥に時間を要する場合には、ドライヤーなどで強制的に乾燥させること。
 - ・汚れ、水分、洗浄剤などが付着したまま滅菌しないこと。
 - ・オートクレーブ滅菌の場合、精製水を用い水道水は使用しないこと。
- (8) 本品使用後は、すぐに消毒用薬液（上記(1)、(2)参照）又は消毒効果及び防錆効果のある洗浄剤に浸せきし、その後、超音波洗浄器、ブラシなどを用いて洗浄し、刃部などの付着物を完全に除去すること。
- (9) 術後は、使用、未使用にかかわらず所定の消毒・洗浄・滅菌を行うこと。

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

1. 製造販売元

株式会社デンテック
〒174-0053 東京都板橋区清水町 53 番 5 号
TEL：03-3964-2011
FAX：03-3962-5624

2. 販売元

株式会社アート医研
〒106-0032 東京都港区六本木 6-2-5 原ビル 302
TEL：03-5292-5677